

日本思想史研究会

目的

- 広く地域・時代を問わず歴史・思想史を研究する
- 今年度のテーマ：
「日本思想史における西洋という他者：文化の接触・流通・変容」
- 「西洋化」「合理化」という概念で語られがちであった日本近代思想史像の再構築を図る。

運営方法

- 場所：主に究論館プレゼンテーションルーム
- 頻度：月に1、2回
- 形態：研究発表・議論

総括

- 研究課題の結論：
日本の近代諸思想の展開と西洋文化の関係をとり上げる際は、近代西洋合理主義を到達点とした近代化論の枠組みを揚棄し、近代諸思想受容の基盤となった儒学も射程にいれ、中世的な世界観や朱子学的な合理主義との葛藤・融合・変容も検討すべきである。

- 成果：
① 「日本の思想」を研究するのではなく、日本で／日本から歴史・思想史を研究すること、また思想史を越えて、文学・哲学など人文学の全般的な知識を習得でき、自身の研究の状況把握と見直しもできた。
② 「日本思想史における西洋という他者：文化の接触・流通・変容」をめぐるディスカッションや報告によって、メンバーひとりひとりが「西洋」「東洋」についての新たな視座を構築することができた。
③ 専門分野外の参加者にわかりやすく伝える能力を鍛えられた。
④ 報告者が研究会のOB・OGから貴重な意見をもらうことができ、それによって、質の高い論文の執筆につながると考える。

- 問題点
当初予定していた、書評・史料解説など多様な発表の形式が実施できなかった。

今後の課題

- 会員の業績につながるような個人研究発表以外の発表形式を考える。
- 研究会のことを宣伝するために、例会のポスターをなるべく作るようにする。

開催内容

- 前期
① 「江戸の医学と西洋」「明治憲法と西洋」「近代主義と西洋」「近現代の医学と西洋」「日本思想史と西洋」などを議題として、個別報告という形で進行
② 「長崎からみる日本と西洋」をテーマとし、長崎歴史文化博物館、日本二十六聖人記念館、出島など海外交流の歴史と関連する場所を見学・史料調査
- 後期
中世・近世・近代の学術の形成と展開に関する総合的研究を目指して、メンバー各自の研究進捗を報告

研究会の様子

